

あま
雨やどり

作：橋 翠子

ぽつぽつぽつ。秋の夕ぐれ。冷たい雨が降ってきました。
りこは早歩きで家路をいそぎましたが、やがて小降りだった雨は、一気に入降りに。髪の毛や服が、どんとぬれていきます。
(どうしよう……)

りこは、立ち止まってしまいました。

すると、バサバサバサッと一羽のカラスが飛んできました。カラスは、りこのおさげ髪を、くちばしでつまんでひっぱります。

「わ、わわわ」

りこはあわてて、カラスを追いはらおうとしました。けれどカラスは、はなしてくれません。ひっぱられるままに、いつもは右に曲がる道を、左に曲がってしまいました。曲がった道の先には、大きな木が立っていました。

(「こんな木、あったっけ?」)

りこは、目の前の木を見上げました。いつもは通らない道ですが、こんなに大きな木なら、どこからだって見えるはず。なのに、今まで気がつかなかったなんて不思議です。



(「ま、いいや。あの下で、雨やどりさせてもらおうと」)

りこは、大きな木の下にかけこみました。そして、ぬれた髪の毛やスカートをハンカチでふいていると、こんな声が聞こえてきました。

「似てるけど、ちよっと違うんじゃないカア?」

「カアカア、角がないしね」

「ひえー、間違えて連れてきちゃったカア」

声の主を探し、りこはあたりを見回してみましたが、誰もいません。いるのは、枝に止まっている三羽のカラスだけ。そのうちの二羽は、さきほどりこのおさげ髪をひっぱったカラスのようです。

「あ、あれは、おじじ殿と姫様だカア!」

「カアカア、あっちには角があるよ、あっちが本物の鬼姫様だあ」

なんとしゃべっているのは、そのカラスたち。鳥がしゃべるなんて、信じられませぬ。おかしな世界に、迷いこんでしまったみたいですよ。

カラスたちの見ている方向から、あざやかな赤の着物を着た女の子が歩いてきます。女の子の頭には、によきつと一本の角が生えています。鬼姫様というのは、この

【豆知識】カラスは首から、白毛を染めて全身黒く、黒色の強いだご毛をえらんでいます。

